誰でもわかる　がん講座・125　抗がん剤と副作用

がんの治療で使われる薬には、抗がん薬、内分泌療法薬（ホルモン療法）、分子標的薬、免疫チェックポイント阻害薬などがあり、総称してがん薬物療法と言われています。いずれの薬もがんに対する効果と何らかの副作用が起こります。副作用は個人差が大きく、患者さんによって起こる副作用は異なりますが、起こる可能性の高い副作用や重大な副作用、起こりやすい時期などは、薬ごとにある程度わかってきています。薬の副作用をあらかじめ予防したり、副作用やがんによる症状をやわらげる治療を「支持療法」といい、使用するお薬の開発も進んできています。がん薬物療法中に体調変化があった時、「薬の副作用だから我慢しなきゃ」と考えることもあると思いますが、副作用の種類によっては重症化することもあります。特に免疫チェックポイント阻害薬の副作用は、予期せぬ時期に起きたり、軽い症状であっても重篤化してしまうことがあります。「副作用なのかな」「こんなことで相談してもいいのかな」と迷うことがあれば、我慢せず薬剤師にお声掛けください。副作用かどうかを判断し、必要な対処法を一緒に考えていきましょう。

薬務局　宇留島　美佳